

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **64** 2018
May

Special Feature

屋上ヘリポートの
運用を開始しました
理事長・学長からの
メッセージ vol.7



Contents

特集

屋上ヘリポートの運用を開始しました	3
理事長・学長からのメッセージvol.7	4
新キャンパスの整備方針について	5
平成29年度 卒業式	6
平成30年度 入学式	8
退任の挨拶	10
就任の挨拶	10
平成30年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算	12
未来への飛躍基金だより	14
MBT研究所だより	15
図書館だより	16
第2期中期目標・中期計画の達成に向けて	17
第3期中期計画の策定について	17
専門看護領域の研修を行っています	17

Campus News

いのち輝く未来社会のデザインシンポジウムにMBTの研究成果を展示しました	18
丹波市議会がMBT事業の視察のために来学されました	18
くすりの町漢方マルシェに出展しました	18
大和漢方医学薬学セミナーを開催しました	18
奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました	19
研究倫理教育研修会を開催しました	19
メディカルジャパン2018関西医療機器 開発製造展に出展しました	19
チェンマイ大学との交流を図っています	19
〈ナント〉元気企業マッチングフェア2018に出展しました	20
海外から最新医療システムの視察に來られました	20
看護研究発表会を開催しました	20
高井病院に陽子線がん治療研究センターを開設しました	20

Winner Report

第90回日本産業衛生学会で奨励賞を受賞しました	21
第63回日本病理学会秋期特別総会で日本病理学会学術研究賞を受賞しました	21
第21回日本心血管内分泌代謝学会学術集会以高峰謙吉賞を受賞しました	21
第34回国際心臓研究学会日本部会でYoung Investigator Awardを受賞しました	21
2017医学誌「Blood」TOP10に藤村吉博名誉教授らが参加した論文が選ばれました	22
第1回日本循環器学会基礎研究フォーラムで受賞しました	22
第28回日本疫学会総会で奨励賞を受賞しました	23
遠山椿吉記念第5回健康予防医療賞授賞式で山田和江賞を受賞しました	23
高度医療技術修得者養成について	23
平成29年度コニカミノルタ画像科学奨励賞を受賞しました	23
第219回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞(優秀演題賞)を受賞しました	24
平成29年度TBL Best Teacher表彰式を行いました	24
平成29年度FD活動表彰式を行いました	24
上原記念生命科学財団・平成29年度研究奨励金を受賞しました	24
中富健康科学振興財団・平成29年度(第30回)研究助成金を受賞しました	24
第43回Society of Interventional Radiologyで2017 JVIR Top Outstanding Laboratory Investigation Awardを受賞しました	25
本学医学科3年生の坂口さん・林さんの共著論文がNeuroscience Lettersに掲載されました	25
平成29年度(第3回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定	25
平成29年度 学位授与の状況	25

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	26
-------------------------------	----

Information

公開講座情報	27
新しい寄附講座・共同研究講座を開設しました	27
平成30年度入試結果	27
メディア掲載情報/編集後記	28

屋上ヘリポートの運用を開始しました

附属病院 B・C 棟の屋上にヘリポートが完成しました。2 月 26 日からドクターヘリの運用を開始しています。

県内では、これまでヘリポートがあったのは奈良総合医療センターのみでしたが、本院に続いて 5 月に移転開院を予定している県総合医療センターでもヘリポートの運用が予定されており、本院を基地病院としながら、3 病院で機動的なドクターヘリの運用を目指します。

▶ドクターヘリの概要

【ドクターヘリとは】

- 救急医療用の医療機器などが装備され、救急医療の専門医や看護師が搭乗する専用のヘリコプターです。
- 医師による治療が迅速に開始でき、患者の救命率の向上や後遺症の軽減などが期待されます。

【運航時間】

- 原則として午前 8 時 30 分～日没まで
- 365 日運航 夜間や天候不良時は運航不可

【出動範囲】

- 県内全域（片道 15 分以内で全県をカバー）



▶ドクターヘリ設置のメリット

救急患者の受入体制強化

本院ではこれまで、ドクターヘリ搬送による患者は、近隣の橿原運動公園で降ろし、そこから救急車で 10 分程度かけてここまで搬送をしていましたが、これからは病院直結で患者を搬送できるので、時間短縮及び傷病者の安全確保（乗せ替えリスクの回避）が可能となります。

ヘリポートの完成にあたり竣工式典及びテープカット式を行いました

ヘリポートの運用に先駆けて 2 月 24 日に竣工式典及びテープカット式を行いました。

式典には県内市町村長や病院、県、消防の関係者の方々にご出席いただきました。

本学の細井理事長・学長は「直接病院に着陸でき治療を開始できるということは、県民にとってありがたいこと。県の医療

への熱意と実行力に感謝します。」と挨拶しました。

来賓の荒井正吾奈良県知事や岩田国夫奈良県議会議長、森下豊橿原市長からは、「これからも県民の期待に応え、医療機関、医療機関として発展してほしい。」などご祝辞をいただきました。その後、細井理事長・学長や来賓の方々へヘリポートに移動し、テープカットで完成を祝いました。



竣工式典の様子



テープカット式

理事長・学長からのメッセージ vol.7

これまでの4年間、皆様方には様々な御協力を頂き、誠に有難うございました。
この4月からは、役員一同、気持ちも新たに、奈良医大の発展に尽くしていきたいと思っています。
さて、新年度を迎えて、早速様々な変革の予兆が見えて参りました。

1. 地震の予兆

私は、2015年9月以来、種々の会合で「マグニチュード10の地震は絶対来ないか？ 道州制にならなければ奈良医大は安泰か？ 国立大学廃止や統合の噂は嘘か？」と、警鐘を鳴らしてまいりましたが、この3月には、立て続けに地震の予兆となる報道がされています。それは「国公立大学を含めて、大学を3種類に分類」、「大学本格再編促す、文科省法改正を検討、名古屋大と岐阜大が運営統合協議」「国公立という設置者の違いを超えた再編統合」といった報道です。

本学の10年先、20年先を決めるのは、10年先、20年先に本学にいる方々ではなく、今いる私たちです。そういう点からも、将来に対して大きな責任を担っています。本学が、全国的に存在感のある大学として、つまり「従ではなく主たる大学」として存続していく準備を加速させなければならないと危機感を持っています。「大学は国力の源。大学はビジョンを持って事業を行う。」という国の方針に従い、成果を上げていかなければなりません。

まず臨床面では、本学附属病院が、臨床研究中核病院になること、そしてそれぞれの教室が、それぞれの分野において、高い地位を得ることが必須であると考えています。次に、大学教育においては、限られた講義時間の質を上げる努力をさらに進め、成果を求めていきます。受験界等でも注目されている、「英語教育日本一の医科大学」をさらに推進します。研究面においては、臨床、基礎ともに、本学内にとどまらず、他施設・他領域との連携を広く進めていきたいと考えています。また本学発祥の日本創生構想である「MBT運動」を全国展開し、本学が奈良県だけでなく、日本にとって無くてはならない存在であることを示していきます。

これらを達成するためには、本学のスタッフである皆さん一人一人の気持ちと努力が必要であることは言うまでもありません。これからも、ご助言、ご協力、そしてご理解の程、心よりお願い申し上げる次第です。

2. 本学キャンパスの全国展開

橿原外キャンパスの設置を推進し、現在では、東京都に1ヶ所、大阪府に1ヶ所、奈良県に3ヶ所、設置しています。大学院生は、橿原キャンパスで研究した場合と同様に、本学大学院から学位が授与されます。因みに、橿原外キャンパスの運営は、すべて連携相手先の負担によることとなっています。以下に最近新たに創設されました実例を挙げます。

1) 「奈良県立医科大学陽子線がん治療研究センター」と大学院

奈良県天理市の高井病院内に上記を設置しました。3月4日には奈良県知事にもご臨席いただき、開所式を行いました。陽子線がん治療の研究は、70億円の費用を要すると言われている「陽子線がん治療設備」が必要ですが、本学内には同設備がありません。連携大学院を同施設内に設置することにより、本学大学院において、陽子線の研究が可能となりました。

2) 「奈良県立医科大学東京キャンパス」と大学院

東京国分寺市の小林理学研究所内に上記を設置し、4月14日に現地で開所式を行いました。本研究所は、日本で二番目のノーベル賞受賞者である朝永振一郎博士が、昭和26～39年まで素粒子の研究をした研究所として知られています。東京周辺で、本学大学院で勉強をしたい方を募り、関東方面でも本学の存在感を示したいと考えています。



奈良県立医科大学陽子線がん治療研究センター



奈良県立医科大学東京キャンパスにて

新キャンパスの整備方針について

奈良医大では平成 29 年（2017 年）4 月に「キャンパス整備イメージ」を公表し、平成 31 年（2019 年）3 月までに新キャンパス整備基本計画の策定を予定しています。

基本計画の検討にあたっては、学内で議論を重ねるとともに、奈良県との情報共有に努めてまいりました。このたび奈良県において今後の整備方針が決定されましたので皆様にお知らせします。

先行整備と継続整備

県にとって大規模投資となるキャンパス整備の進め方については、限られた財源の有効活用を図るため、老朽化が著しい教養教育部門及び看護学科の施設を先行して整備することとなりました。整備過程を大きく 2 つに分け、「先行整備」と「継続整備」とし、「先行整備」の内容は以下のとおりです。

- ①教養教育部門・看護学科（医学科 1 年・看護学科 1 年～4 年）が学ぶ施設を新キャンパスに整備、移転を行い、学生・教員等の安全を確保します。
- ②来院者の利便性の向上を目指し、周辺交通の渋滞原因にもなっている患者用駐車場を現キャンパスに整備します。

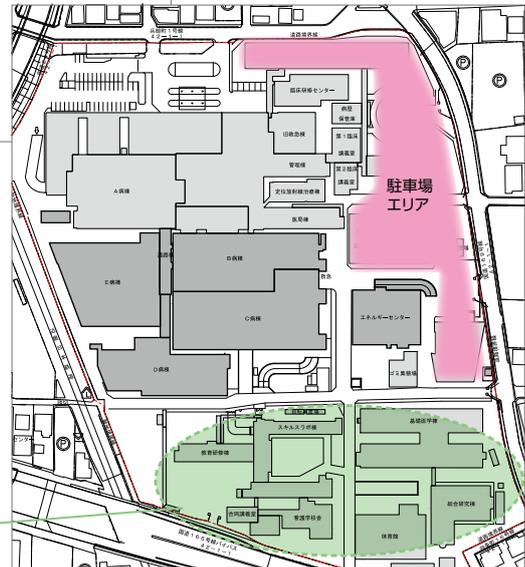
これら「先行整備」が完了した後に、引き続き、研究関連の機能を継続して整備し、教育・研究部門の新キャンパスへの全面移転を行います。

平成 36 年度（2024 年度）中の新キャンパス（先行整備分）竣工

第 2 期中期計画では「新キャンパスの平成 33 年（2021 年）中のオープンを目指す」としていましたが、移転にあたり本学の将来のあるべき姿の道標として「奈良県立医科大学の将来像」を約 3 年の年月をかけ策定したこと、また今後、農地転用、文化財発掘調査、開発許可申請など様々な手続を経る必要があることから、予定を変更し、平成 36 年度（2024 年度）中の新キャンパス竣工を目指すこととなりました。



新キャンパス建物配置イメージ



現キャンパス建物配置イメージ

- 〈先行整備〉

 - ・解体・駐車場設置
 - 大学本部棟・教養教育棟・図書館・大講堂を解体し、仮設駐車場を整備
 - ・耐震改修
 - 必要に応じて基礎医学棟などを耐震化

- 〈継続整備〉

 - ・新外来棟・立体駐車場を整備予定

平成29年度 卒業式

式辞

学長 細井 裕司

今日のおき日、奈良県立医科大学医学科を卒業する107名、看護学科を卒業する88名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは小学校入学以来の長い学生生活を修了され、ここに学士(医学)、学士(看護学)の学位を得られましたことは誠にめでたく、心からお祝い申し上げます。

これは、何よりも皆さんの弛まぬ努力の結果ではありますが、それと同時に、今日まで諸君を慈しみ育ててこられた保護者の皆様方や、皆さんの人間形成や教育に御指導を賜った教員、並びに関係する皆様のお陰であり、このことに感謝の気持ちを持っていただきたいと思います。

また、本日は、公務ご多忙の中ご臨席くださいました、
奈良県副知事 一松 旬様
奈良県議会副議長 松尾 勇臣様
奈良県医療政策部長 林 修一郎様
をはじめ、御来賓並びに関係各位に心から厚く御礼申し上げます。

先取り

昨年12月2日の新聞に「ポスト平成、新しい日本へ」という特集があり、その見だしは「先送りから先取りへ」というものでした。記事は以下のように続きます。「平成が2019年4月末で終わる。何度も危機に見舞われた停滞の時代である。停滞が続いた理由は何か。問題解決を先送りし、無駄に時間を費やしたからではないか。」

世界情勢をはじめ、時代は急速に変化し、皆さんがこれから活躍される世界は、先送りが許されず、先取りをしなければ淘汰される時代になっていくと思います。

AI

皆さんの将来を考える上で、私が注目した新聞記事をいくつか紹介します。昨年5月28日、「 α 碁最強棋士に3連勝、AIが人間を圧倒し引退へ」の見だしがありました。Googleは、囲碁の世界を引退し、医療に技術応用すると言っています。また、本年1月13日、「GM無人運転2019年に、量産車ハンドルなし」の記事が載っており、AIが拓く社会変化が予想以上に速いことを感じさせます。昨年、4月23日、「ロボットと競えますか。日本の仕事を5割代替、主要国トップ」という記事もありました。皆さんがこれから活躍される世界はAIの世界でもあるのです。

対処法

どのような激動の世界であっても、皆さんは何も心配することはありません。なぜならば、皆さんは本学で真摯に学んだからです。本学で学んだ知識と技量はこれから皆さんが飛躍していく上での基礎として十分なものだと思います。また、クラブ活動を含めた種々の分野における経験や友人が心の支えになってくれることでしょうか。困ったときは母校奈良医大を相談相手にしてください。母校奈良医大は皆さんを一生支えます。

奈良医大で学んだことは単に知識だけではありません。人生を豊かにするための先取りの精神を学びました。

人には前を見る人と、後ろを見る人がいます。前を見る人とは、これから起こることを予測して前へ進む人であり、後ろを見る人とは、何ごととも過去のことと照合しようとする人です。前例にこだわる人といえるかもしれません。前を見る人は前へ進み、人生が豊かになります。後ろを見る人は、現在の位置に留まり、それ以上の人生は来ないでしょう。前を見る人においても、何手先まで読めるかによってその成功率は左右されます。藤井聡太さんが29連勝できたのは、相手よりも先まで見



通しがきき、その読みが的確であること、そして、打つ手に他の棋士が思い付かない独創性があることです。この事ができたのは、従来通りの人による指導だけでなく、AIを活用したからだと言われてています。

最後に

皆さんを活躍の場に送り出すに当たって、皆さんの人生をよ

り輝けるものにするために、私が自分自身にも常々言い聞かせている好きな言葉を贈りたいと思います。それは、「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か。」というある企業のキャッチコピーです。自分の行動を決めるとき、思い出してください。必ず人生が豊かになると思います。「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か。」
本日は誠にありがとうございます。



新たなる旅立ち (医学部卒業式 大学院修了式 平成30年3月15日)

今年も227名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。(227名：医学科107名、看護学科88名、大学院医学研究科博士課程17名、同修士課程7名、看護学研究科修士課程8名)
また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。(敬称略)

◆奈良県立医科大学学長賞

医学科6年間または看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を収めた者

医学科：澤井 瑠一
看護学科：志野 有咲

◆医学科同窓会厳樞賞、看護学科同窓会華樞賞

- ①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者 (ヒーローオブザクラス)
- ②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
- ③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳樞賞：浅井 祐志、美波 直岐、藤田 匡秀

華樞賞：下村 美奈、津地 ひかり、古川 実咲

学長賞受賞者

医学科 澤井 瑠一

この度は学長賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。

入学以来、試験ばかりで膨大な勉強量に圧倒されることもありましたが、この努力がいつかは人のためになると考えると苦になりませんでした。また、勉学のみならず部活動などでも様々な経験をさせていただき、人間的にも成長できた6年間でした。学生生活を思い返してみるといつでも私は温かい方々に支えられていたように思います。今の自分があるのは教職員の皆様、先輩・後輩、同級生、そして家族のおかげであると実感しております。心より御礼申し上げます。

4月から長年の夢であった医師としての生活がスタートします。患者様に寄り添う気持ちを忘れずに日々精進していき、皆様に恩返しが出来ればと思います。変わらぬご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



看護学科 志野 有咲



この度は学長賞を頂き、大変光栄に存じます。ご指導を賜りました教職員の皆様方、共に学んだ同級生、支えてくれた家族に心より感謝申し上げます。

大学生活では、課題や実習で心が折れそうになることもありましたが、それを乗り越え、学業に取り組みすることができたのは、良い仲間に出会え、周囲の環境に恵まれていたからです。

4月から看護師として新たな生活が始まります。患者様の気持ちに寄り添うことができる良き医療者になれるよう、より一層精進致します。そしてこれまでの御恩を周囲の方々にお返しできるよう努めてまいります。

平成30年度 入学式



式辞

学長 細井 裕司

今日、春爛漫の良き日に医学部医学科113名、同2年次編入学生3名、医学部看護学科85名、合計201名の晴れやかな入学生の皆さんを奈良県立医科大学に迎えることができるのは、私どもの大きな喜びとするところであり、入学生の皆さんに対し心から「おめでとう」と申し上げるとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。

また、入学する学生を今日まで慈しみ、支え、育ててこられた、ご列席のご両親やご家族の皆様に対して心からお慶びを申し上げます。

本日、ご多忙の中御臨席いただきました、

奈良県知事

奈良県議会厚生委員会委員長

奈良県議会厚生委員会副委員長

奈良県議会議員

奈良県議会議員

奈良県議会議員

奈良県福祉医療部長

奈良県立医科大学医学部医学科同窓会会長

奈良県立医科大学医学部看護学科同窓会会長

をはじめ、ご来賓の皆様並びに関係各位に対しまして厚く御礼を申し上げます。

荒井 正吾様

奥山 博康様

山中 益敏様

岡 史朗様

森山 賀文様

亀田 忠彦様

林 修一郎様

國分 清和様

植村 信子様

奈良県も奈良医大も臨床医学教育に熱心——

まず最初に、皆さんは5年後、10年後、20年後、30年後に自分の一生を支える土台として、奈良医大を選んでよかった、奈良医大に入学してよかったと思われることを私は確信していると申し上げたいと思います。その理由として、設置者である荒井知事をはじめ、奈良県が医療に熱心であり、そして、医療を支える医師、看護師の教育に高い関心を示しておられることが挙げられます。奈良県と奈良医大が3年間にわたって毎月行ってきました将来像策定会議において多くの時間を医師や看護師の教育についての議論に費やしました。その成果を「奈良県立医科大学の将来像」としてちょうど1年前に取りまとめることができました。また、新キャンパスの整備計画も着々と進んでおり、皆さんが、医師や看護師として活躍される頃には、将来像策定会議で議論された理念に裏打ちされた最も新しい設備を備えた医科大学になっていると思います。

奈良医大は設置者の熱意を受けて、日本一の医学・看護学教育を行うことを決意しております。それらの実例と実績を紹介させていただきたいと思います。

奈良医大独自の教育——

臨床英語教育と海外研修に力を入れています。奈良県においても、海外からの人たちと交流する機会が増えてきました。これから国際性の豊かな医療人の重要性は、ますます大きくなっていきます。これらの情勢を踏まえて、他大学以上に臨床英語教育に力を入れることとし、2年生の冬に3ヶ月間Harvard Medical School、University of Michigan Medical Schoolなどの海外実習を可能とする制度も導入しております。

卒前・卒後の臨床教育を高いレベルで実現するために、外科マスター制度やDr.Nステップアッププログラムなど奈良医大独自の制度も始めています。

また、奈良医大の卒業生に対して一生高い医学レベルが保てるように生涯教育システムの構築を行っているところです。これから医師・看護師過剰時代を迎えることを見越して、サイズの高い大きな大学ではできない、きめ細かく卒業生をサポートする仕組みを作ろうとしています。



施設の充実

奈良医大はこの橿原キャンパスに充実した大学院を擁しておりますが、その他にも全国4箇所に連携大学院を設置しております。奈良県の市立奈良病院内のIVR研究センター、高井病院内の陽子線がん治療研究センター、大阪府の国立循環器病研究センター内の分子生理研究室、そして東京都の小林理学研究所内です。これに加えて、奈良県の阪奈中央病院内に、奈良県立医科大学スポーツ医学研究センターがあります。ちなみに、小林理学研究所は、後に湯川秀樹博士に次いで日本で二番目のノーベル賞受賞者となる朝永振一郎博士が昭和26年から39年まで素粒子論の研究を行った研究所としても知られています。この5箇所は奈良医大のランチといえる施設です。この方式は奈良医大独自のもので、他学にはないと思います。

奈良医大には皆さん方の先輩が活躍している多くの関連する病院があります。本日は多くの病院から院長先生や看護部長様にご臨席いただいておりますが、皆さん方を立派な医師や看護師にするために、これらの病院も力を注いでください。先頃も、奈良市に奈良県総合医療センターの新病院棟が完成しましたが、将来皆さん方の活躍の場の一つになると思います。



先輩の実績

奈良医大には教育熱心であるという自負がありますが、皆さんの先輩の結果を見てみます。まず国家試験ですが、先頃発表されました医師国家試験合格率において、奈良医大の新卒者の合格率は99.1%で、トップ5に入りました。また、看護師国家試験合格率は100%でした。

医師臨床研修におけるマッチング率は奈良医大は100%で全国第1位、奈良県も47都道府県中第2位となりました。このように奈良医大卒業生の奈良県への定着と県外から奈良県において研修しようという若手医師が増加していることは、

前期研修先として奈良が選ばれている証だと言えます。また、2年の前期研修が終了した後、将来の専門科を選ぶ段階で後期研修先を決めますが、今年度の結果は、奈良医大で前期研修を修了した人数より、31名多くの方が後期研修先として奈良医大を選びました。つまり、他府県も含めて奈良医大以外の病院で前期研修を終えた人が、奈良医大で後期研修をすることになりました。奈良医大と奈良県の医療に対する熱意が学生や研修医に伝わってきた結果だと思います。



おわりに

これから医学科にあっては6年間、看護学科にあっては4年間、卒業後に大きく、飛躍する礎を奈良医大で築いて欲しいと思います。

本日は本当におめでとうございます。

退任の挨拶



物理学
教授 平井 國友

平成30年3月末をもって、物理学教室の教授を退任いたします。昭和57年に本学の助手に採用され、平成18年に教授に就任しましたので、教授としての12年間を含め、36年間を本学で過ごしたことになります。この間、教養教育の充実に尽力してまいりましたが、これはひとえに本学の諸先生方のご高配とご支援のお蔭です。皆様には心より感謝するとともに、奈良県立医科大学のより一層のご発展を心よりお祈りいたします。

平成30年3月末をもって救急医学教授を退任することとなりました。平成12年4月1日から18年間、奈良県立医大の皆様方には、御指導と御支援をいただき誠に有難うございました。この間本学の学生や研修医に対する救急医学教育と、県下の救急医療システムの構築に携わらせていただいたことは私の喜びでもあり誇りでもあります。救急医学教室を支えていただいた全ての方々のご多幸と、奈良県立医科大学の更なる御発展を願っております。



救急医学
教授 奥地 一夫

平成30年3月末をもちまして任期満了となりますが、平成18年5月に本講座の教授に就任して12年間、歴代の学長、医学部長、研究部長をはじめ、教職員の皆様の協力を賜り、心より感謝申し上げます。退任後も、講師の高橋弘雄が9月までお世話になるかと存じますが、その際には何卒よろしくお祈りいたします。最後になりましたが、本学の皆様のご多幸と一層のご発展をお祈りいたします。

先端医学研究機構
脳神経システム医科学
教授 坪井 昭夫



先端医学研究機構
脳神経システム医科学
教授 坪井 昭夫

本年4月末をもちまして任期満了となりますが、平成18年5月に本講座の教授に就任して12年間、歴代の学長、医学部長、研究部長をはじめ、教職員の皆様の協力を賜り、心より感謝申し上げます。退任後も、講師の高橋弘雄が9月までお世話になるかと存じますが、その際には何卒よろしくお祈りいたします。最後になりましたが、本学の皆様のご多幸と一層のご発展をお祈りいたします。

再度上記の職を拝命いたしました。平成29年度に策定された本学の「将来像」の中に掲げられた「良き医療人の育成」を目指した教育プログラムの確立と、研究力強化のための6つの重点課題研究を含めた学内研究の一層の推進のために、様々なご意見を傾聴しながら、気を引き締めて職責遂行にまい進する所存です。学内すべての教員・職員・学生の皆様方のご協力と叱咤激励を今まで以上に賜りますようお願い申し上げます。

就任の挨拶



教育・研究担当理事、副学長、
医学部長、医学科長、附属図書館長

車谷 典男

再度上記の職を拝命いたしました。平成29年度に策定された本学の「将来像」の中に掲げられた「良き医療人の育成」を目指した教育プログラムの確立と、研究力強化のための6つの

重点課題研究を含めた学内研究の一層の推進のために、様々なご意見を傾聴しながら、気を引き締めて職責遂行にまい進する所存です。学内すべての教員・職員・学生の皆様方のご協力と叱咤激励を今まで以上に賜りますようお願い申し上げます。



医療担当理事、副学長、附属病院長
古家 仁

この度、特定機能病院における病院長選考規程に則り病院長に選任されました。これまで6年間病院長として仕事をしてきましたが、今回選考規程が大きく変わったことで改めて重責を担う役割なのだ、という感を強めて

います。この6年間、病院長の活動を支えてくれた大きな柱として、経営運営会議、マンデー会議、8つのプロジェクト会議等があります。プロジェクトは私が病院長になってから設置した活動で、入院診療、手術、外来診療・地域連携、保険診療、医薬材料、医療安全・質評価・教育、がん診療、救急医療、など病院運営に必須の内容ばかりで、それぞれプロジェクトリーダーの下、存分に力を発揮して病院運営に大きく寄与してくれており、引き続き継続します。現在多くの大学病院はあらゆる面で厳しい状況に置かれています。本学も同じで、今まで以上に皆様のご理解ご支援が必要です。どうぞよろしくお祈りいたします。



研究部長、医学研究科長
嶋 緑倫

この度、引き続き研究部長を拝命いたしました。現在、キャンパス移転も控え、長期的な展望に立って研究体制を計画的に構築していく段階になっています。さらに、他学より一歩でも先に出る競争力を蓄えることが求められて

います。そのためには、従来の教室単位の研究形態のみではなく学内外や産官との連携を積極的に推進すること、また、大型の研究費の獲得にチャレンジできる研究体制を構築することが益々必要になってくると思います。将来を見据えた研究ニーズにあった大学院の充実も重要な課題です。課題は山積ですが、本学の研究の活性化に少しでも貢献できるように全力で取り組む所存ですので、よろしくお願い申し上げます。



看護学科長、看護学研究科長
石澤 美保子

4月1日付で看護学科長と看護学研究科長の職を拝命しました。前任の飯田順三先生のご尽力により、大学院看護学研究科にこの4月から新しく周麻酔期看護師教育課程が開始され、来年度からは高度実践看護師教育課程（急性・重症患者看護専門看護師）が始まります。看護系大学が全国で260校を超えており、これからは淘汰される時代に入ると予測するとともに、本学の強みを再確認しているところです。

まずは、博士課程（看護学）開設を目標に、複雑かつ加速度的に変化する医療情勢の中で、本学看護学科・大学院研究科に期待されていること、果たすべき役割を明確に打ち出して皆で力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。教職員の皆様のご指導とご支援をよろしくお願い致します。



教養教育部長
酒井 宏水

平成27年度に医学科・看護学科の一般教育組織を統合し、教養教育部門が新設されました。以来、教育改革2015に基づき様々な構想が具体化されてきました。本部門は多様な分野の教員によって構成され、学問の垣根を越えるとなか

なか理解が及ばないことがあります。定例の協議会等で議論を尽くし、少しでも良い方向に解決されるようにしたいと思います。変化の速い時期に教養教育部門長に再任され、責任の重さを感じています。引き続きご支援とご協力を頂きたく、宜しくお願い致します。



基礎教育部長
吉栖 正典

4月1日付で基礎教育部長に再々任されました。この4年間の基礎医学教育では、「良き医療人育成プログラム」が定着してきているように感じています。新しいカリキュラムでの「リサーチクラークシップ」では、海外に派遣

されて医学研究に取り組む学生が多数おり、このプログラムに魅力を感じて本学に入学する学生もでてきています。本学の医学教育の目的は学生を将来、立派な医師や医学研究者へと導いていくことであり、基礎医学系教員の先生方をはじめ多くの先生方と緊密な連携を取って教育を進めていきたいと考えています。教職員の皆様方のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



臨床教育部長
長谷川 正俊

4月1日付で臨床教育部長を拝命いたしました。医学教育のあり方が頻繁に議論され、奈良県立医科大学教育改革2015に代表される改革が進行中で、目指すべき良き医療人育成に向けた取り組みが行われ、2016年には医学教育分野別評価も受審しました。臨床教育においても成果が

出てきていますが、国家試験合格のみがゴールではなく、臨床教育が果たすべき役割はさらに大きいことは言うまでもありません。医学部長、教育開発センター、さらに教養教育、基礎教育等とも緊密に連携して臨床教育をすすめることが重要と考えますので、よろしくお願い申し上げます。



看護教育部長
川上 あずさ

この度、4月1日付で看護教育部長を拝命いたしました。看護学教育では、平成29年度に文部科学省のモデル・コア・カリキュラムを含むカリキュラムに関連する3件の文章が公表されました。本学で実践中の良き医療

人育成プログラムを基盤に、社会や地域に求められている看護学教育を考慮しながら、成人へ社会人へと成長発達する学生を微力ながら支援していきたいと考えています。ご指導ご協力いただきますよう、よろしくお願い致します。

平成30年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

平成30年度で最終を迎える第2期中期目標の確実な達成、中期計画の遂行、キャンパス整備検討に必要な予算について、県等からの支援を活用し、必要な予算を確保するとともに、収入確保や経費削減、投資効果の検証など経営改善策の推進に主眼をおいた予算編成を行いました。

予算規模については、附属病院収入の増、それに伴う診療経費の増、人件費の増が見込まれ、とりわけA病棟改修や総合医療情報システム更新などの施設・設備整備経費が大幅に増加するため、平成29年度の約462億円と比較しておよそ25億円増の487億円となりました。

平成30年度の主な取り組みとして、昨年度から引き続き「奈良県立医科大学教育改革2015」や「重点研究2016推進計画」

の本格実施など「医大の将来像策定会議」において議論された内容を実施していきます。

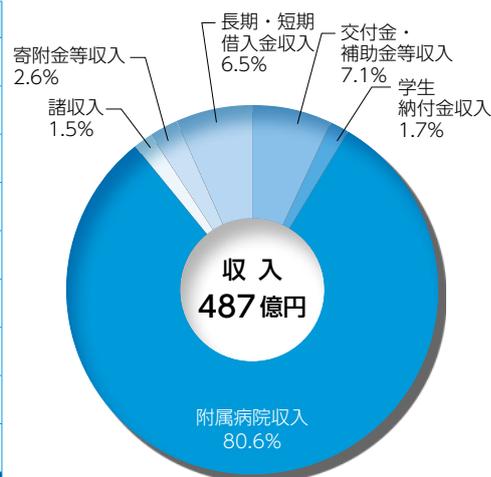
また、将来的なキャンパス移転に伴う施設整備基本計画策定や移転地にかかる各種調査など、まちづくりに向けた取組も引き続き行います。

さらに、平成31年度より新たに開始する第3期中期目標・中期計画に向けて、それぞれの分野において検討・とりまとめを十分に行い、各方面とも協働の上で策定に向けて取り組んでいきます。

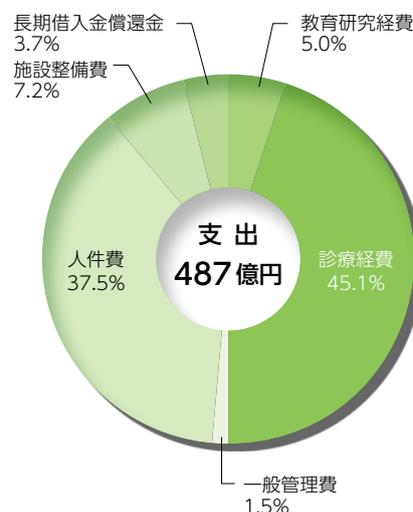
法人の更なる発展のため、中期計画の円滑な遂行、効率的な法人経営の推進について、教職員のみならず、それぞれの分野でのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

平成30年度予算の内容

収入	項目	予算額	構成比
収入	法人が自ら得た収入(自己収入)	407.9億円	83.8%
	附属病院の診療報酬等(附属病院収入)	392.0億円	80.6%
	学生が納付した収入(授業料・入学金・入学検定料)	8.4億円	1.7%
	その他の収入(諸収入)	7.5億円	1.5%
	他機関等からの支援(交付金・補助金)	34.4億円	7.1%
	県からの支援(運営費交付金等)	25.4億円	5.2%
	国等からの支援(補助金収入)	9.0億円	1.9%
	職員が集めた収入(受託研究・寄附金等収入)	12.6億円	2.6%
	借金の借入(長期借入金等収入)	31.8億円	6.5%
	収入計	486.7億円	100.0%



支出	項目	予算額	構成比
支出	義務的に支払う必要のある経費(人件費、償還金)	200.7億円	41.2%
	職員への給与の支払い(職員給与)	177.0億円	36.4%
	退職手当の支払い(退職手当)	5.5億円	1.1%
	借金の返済(長期借入金償還金)	18.2億円	3.7%
	業務の運営に必要な経費(業務費等)	251.1億円	51.6%
	大学での教育研究に必要な経費(教育研究経費)	24.3億円	5.0%
	附属病院での診療に必要な経費(診療経費)	219.6億円	45.1%
	法人の運営全般に必要な経費(一般管理費)	7.2億円	1.5%
	施設整備や医療機器購入経費(施設整備費)	34.9億円	7.2%
	支出計	486.7億円	100.0%



平成30年度予算の主要事業・新規事業

地域貢献

適切な医師派遣システムの確立、学生の県内就職率の向上

- 県立医大医師派遣センターの運営
● 県費奨学生配置センターの運営
23,600千円 (H29 26,900千円)
医師配置の一元的な運営体制のさらなる整備、県費奨学生の地域配置などの支援
- ドクターヘリ運航推進事業 249,400千円 (H29 251,300千円)
ドクターヘリ運航にかかる委託経費等
- 新 人材育成センター設立検討事業 1,000千円
職種や学問領域を超えた医療人育成のためのセンター設立を検討
- 新 附属病院へのバス運行事業 1,700千円
医大病院線(大和八木駅～医大玄関口)路線のバス運行

教育・研究部門

学生生活支援体制の充実、将来を担う優秀な学生の確保、研究成果の地域への還元、研究支援体制・研究環境の充実

- 良き医療人育成推進事業 49,700千円 (H29 53,400千円)
豊かな人間性に基づく高い倫理観と旺盛な科学的探求心を備え、最善の医療提供を行う強い意志を持った医療人の育成
- 新 教務事務システム更新事業 36,800千円
機能充実を図り、教育改革2015の課題に対応するとともに業務の効率化を図る
- 新 教育用パソコン購入事業 35,900千円
学生の授業及び共用試験、大学院生の研究等で必要なパソコンを購入し、勉学に取り組む環境の充実を図る
- 重点研究推進事業 35,600千円 (H29 15,000千円)
血栓止血の制御に関する研究および画像下での低侵襲医療(IVR)に関する研究
- 研究評価委員会運営費 8,300千円 (H29 2,000千円)
各講座・領域等についての外部専門家を含む評価体制の構築

診療部門

法人の将来を見据えた大規模な投資、患者サービスの向上、病院機能の充実

- 新 新総合医療情報システム整備事業 600,000千円
システムの更新により機能の充実、患者サービスの向上、医療の安全、診療の支援に寄与する
- 研修医確保事業 12,200千円 (H29 10,600千円)
優秀な臨床研修医を多数確保するため、教育実績のある臨床指導医を招聘し、魅力的かつ効果的な研修プログラムを実施
- 新 入退院管理センター施設整備 25,000千円
病床運用と入院手続きの効率化により、患者サービスの向上と入院収入の増を図る
- 臨床研究センターの機能充実 230,000千円 (H29 99,600千円)
臨床研究中核病院の認定取得のため、臨床研究センターの機能を充実

まちづくり

医科大学を中心としたまちづくりの推進

- 大学移転推進事業 51,900千円 (H29 40,500千円)
- 医大周辺まちづくりプロジェクト事業 159,900千円 (H29 414,400千円)
将来の新キャンパス移転に向けて、施設整備基本計画の策定や移転地の各種調査を行う

管理部門

法人組織の円滑な運営・福利厚生の充実、事務の合理化の推進

- 保育園整備事業 246,600千円 (H29 500千円)
- なかよし保育園の運営 120,500千円 (H29 89,200千円)
保育園新館の拡充整備および運営委託・病児保育委託の実施
- 新 人事給与システム更新事業 32,400千円
人事給与システムのクラウド化や入力事務の自動化により業務を軽減
- 新 出退勤システム構築事業 27,600千円
客観的な出退勤管理と業務の効率化によるワークライフバランスの推進を図る
- 新 中期計画策定事業 1,500千円 (H29 100千円)
第3期中期目標・計画パンフレットの作成や調整にかかる経費

未来への飛躍基金だより

日頃は「未来への飛躍基金」に対しご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

お陰様で本学を支えていただいている教職員や学業に励む学生諸君が頑張りがいのある、能力を存分に発揮できる環境づくりが着実に進みつつあります。

今回は、平成 29 年度の実施分、平成 30 年度実施予定分の取組の中から一部をご紹介します。

平成 29 年度取組事業の紹介

将来を担う優れた人材育成を目的とした 修学環境の向上への支援

良き医療人となるための人間形成に大きな役割を果たすクラブ活動を充実させるため、老朽化したクラブ棟の改装を行いました。

クラブ活動は、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に役立つものであり、このような意義から、学業と両立する範囲で多くの学生が活動を行っています。

今回、クラブ活動への支援を行ったことにより、学生へ良き医療人に向けた教育がさらに充実されたと考えています。今後も引き続き、学生のクラブ活動への支援を行っていく予定です。



改装工事後の現在のクラブ棟

職員・学生が能力を存分に発揮できる環境整備

未来への飛躍基金をより積極的に活用していくということから、平成 28 年度に全教職員へ提案募集、平成 29 年度に選定・実施しました。選定された取組のうち、教職員のモチベーションの向上を目的とした歴史年表を掲示する取組について紹介します。

附属病院 E 棟 1 階 中央廊下スロープ横に「奈良県立医科大学のあゆみ」と題し、昭和 20 年の開学から現在にわたる本学の歴史を社会の歴史と共に展示しています。使用している写真は、本学の卒業生の皆様と橿原市よりご提供いただいたものです。是非ご覧ください。



平成 30 年度取組事業の紹介

研究の更なる飛躍に向け科学的探究心を醸成するための取組 リサーチ・クラークシップ

「リサーチ・クラークシップ」は、入学後早期から専門領域の研究内容に触れ、高度な実験の進め方を体得することによって、研究活動の意義や研究者の心を理解して科学的探求心を培うことを目的としており、医学科 2 年生を対象とした国内及び海外の研究室での実習です。

実習に伴う交通費や実習費は法人が負担し、宿泊費の一部を本基金から助成することにより、本人負担をより軽減しました。



京都大学・早稲田大学等をはじめ、17 施設へ



30 名超が国内外長期学外研究室実習へ

今後とも協力いただいた皆様のご厚志を教育・研究環境の充実など基金の趣旨に沿って、有意義に活用しますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 研究グループリーダー募集

MBT共同研究プロジェクトのグループリーダーを募集しております。

MBT研究所では「先生方は論文を執筆し、企業はビジネスを展開する。特許は双方で分ける。」との考え方の下に先生方のテーマと企業のニーズのマッチングを図っております。

しかしながら、若い先生の場合、企業との付き合いの経験がなく、どうすればよいかわからないということが多いのではないかと推察しております。そこで、「自分にはこのようなニーズ・シーズがあり、企業との共同研究ができるのではないか。」というアイデアをお持ちで研究グループリーダーになっても良いとお考えの方を募集いたします。もちろん若い先生ばかりではなくベテランの先生も大歓迎です。

頂いたご提案はMBTコンソーシアム会員企業とのマッチングを図るほか、MBT研究所のネットワーク(MBT研究所自身のネットワークの他にMBTコンソーシアム会員、例えば三井住友銀行のネットワークなども含む)を使って、関連企業等とのマッチングも試みます。奮ってご応募をお願いいたします。ご不明な点があれば、MBT研究所までお問い合わせ下さい。

2. MBTの主要な動き

(1) 第2回MBTコンソーシアム会員会議の開催

平成30年2月20日、厳樞会館にてMBTコンソーシアム全会員を対象にして、第2回MBTコンソーシアム会員会議を開催しました。冒頭、細井理事長よりMBT活動意義の再確認と最近の活動概要が報告されました。(図1) 引き続いて、厚生労働省中国四国厚生局長の片岡佳和氏により、「地域包括ケアシステムと新産業創出」と題した基調講演が行われました。(図2) また、少子高齢社会における課題に対応したMBT活動の在り方についてのパネルディスカッション、6つの部会に分かれた部会会議、交流会・相談会を開催しました。(図3) 本会議には会員企業・団体から98名、奈良医大教職員43名、合わせて140名を超える参加者がありました。



図1：MBT活動成果を報告する理事長



図2：片岡局長の基調講演



図3：交流会・相談会の模様

(2) MBT(医学を基礎とするまちづくり)による新産業創生・地域創生シンポジウム

平成30年3月1日、本学及びMBTコンソーシアム主催でグランフロント大阪北館において「MBT(医学を基礎とするまちづくり)による新産業創生・地域創生シンポジウム」を開催しました。今回のシンポジウムでは、基調講演・パネルディスカッション・ポスター展示コーナー、MBT相談会、の4本建ての催しを行いました。(図4)



図4：理事長による基調講演

3. MBTの広報

(1) 日経新聞全国版広告

平成30年1月29日、日経新聞全国版朝刊に一面広告を出しました。本広告では、『私たちMBTコンソーシアム参加企業・団体は、お互いの信頼のもと力を合わせて、医学に基づいた、少子高齢社会のためのまちづくり、産業創生、地方創生を通じて社会に貢献します』というMBTコンソーシアム宣言がMBTコンソーシアム参画企業・団体の連名で掲載されるとともに、細井理事長へのインタビュー記事が掲載されました。本広告には各方面から大きな反響が寄せられております。

(2) 第8回関西医療機器開発・製造展に出展

平成30年2月21日～23日の3日間、インテックス大阪で開催された第8回関西医療機器開発・製造展(MEDIX)に、本学はMBTコンソーシアムと共同で出展しました。細井理事長も22日午前に会場に駆け付けられ、PRに一役買われました。(図5)



図5：MBTをPRする理事長

診療・学習に役立つ！ 臨床支援ツール UpToDate と DynaMed Plus

臨床上的疑問には、Background question (調べればわかる疑問：疾患や症状に関する一般的な知識) と Foreground question (臨床現場における疑問：調べた結果を元に判断する疑問) があり、後者を調べるツールとして UpToDate や DynaMed Plus といった臨床支援ツールが提供されています。

(例) 高血圧とは？降圧剤とは？→Background question

高血圧患者 A さんに降圧剤を処方してもよいか？→ Foreground question → 臨床支援ツール

【概要】

臨床支援ツールには、専門医による臨床レビューが英語で収録されており、その内容は日々更新されています。それぞれ、以下のような特徴があります。

	UpToDate	DynaMed Plus
トピック数	10,000以上(トピックが細分化されている)	約3,200
トピック書式	説明文	箇条書き
参考文献	トピック末にまとめて一覧	項目ごとに表記(一般的なものはトピック末)
日本語検索	○	×
携帯アプリ	○ (リモートアクセス[4ヶ月])	○ (本体にダウンロード、オフライン可)

【検索(検索日2018.3.8)】

二つのツールを同じテーマで検索してみます。テーマは、「インフルエンザの予防接種時期はいつがよいか?」です。検索キーワードは「インフルエンザ(influenza)」と「予防接種(vaccination)」を使います。

< UpToDate >

日本語検索が可能なので、「インフルエンザ」「予防接種」と入れて検索します。すると、関連するトピックが日本語で表示されます(一部英語表記あり)。1回で40件(最大150件)まで表示されます。テーマに関連のありそうな「成人における季節性インフルエンザワクチン」というトピックを選択します。



トピックを選択すると、本文が英語で表示されます。左上の「SUMMARY & RECOMMENDATIONS」を表示させ、必要な箇所を見つけ出します。五つ目の項目に予防接種の時期について記載がありました。さらに詳しい情報を得るため、項目内の「Schedule」へのリンクをクリックします。

• A single dose of an influenza vaccine should be offered soon after the vaccine becomes available, ideally by October in the northern hemisphere and May in the southern hemisphere. Annual immunization is necessary even if the previous year's vaccine contained one or more of the antigens to be administered because immunity declines during the year following vaccination. (See **“Schedule”** above and **“Need for annual vaccination”** above.)

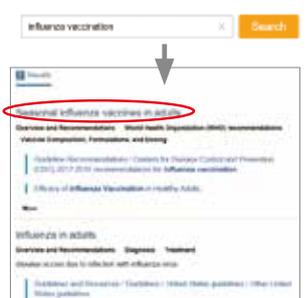
「Schedule」では、より詳細に記載されており、根拠となった参考文献が挙がっています。[4] をクリックすると、参考文献を確認できます。

Schedule — Outbreaks of influenza generally occur during the winter months in the northern and southern hemispheres (which occur at different times of the year). A single dose of an influenza vaccine should be administered to adults annually and should ideally be offered before the onset of influenza activity in the community (by October in the northern hemisphere and by April in the southern hemisphere). (See **“Waning of antibodies and effectiveness”** below.)



< DynaMed Plus >

トップの検索画面で「influenza」[vaccination] と入れて検索します。DynaMed Plus では1回で10件のみ表示されます。(主要な疾患にはトピック一覧が提供されています。) 関連がありそうな「Seasonal influenza vaccines in adults」というトピックを選択します。



本文が英語で表示されます。トピック最初の「Overview and Recommendations」を確認し、必要な箇所を見つけ出します。「Management」部分、2つ目の項目に予防接種の時期について記述がありました。さらに詳しい情報を得るため、項目内の「Timing」へのリンクをクリックします。

Management

- Offer seasonal influenza vaccination to all persons ≥ 6 months old without contraindications.
- The optimal timing of vaccination is before the start of influenza season, typically in October in the Northern Hemisphere and April in the Southern Hemisphere.
- There are several vaccine formulations and selection among them is primarily based on patient age, preference, and local availability.

「Timing of influenza vaccination」にも、北半球では10月に接種するのが適切と書いています。根拠となっている文献(1) をクリックします。UpToDateと同じ文献が参考文献となっていることが確認できます。

Timing of influenza vaccination

- optimal timing of vaccination is prior to the start of influenza season
 - October in the Northern Hemisphere
 - April in the Southern Hemisphere

• 1 Grohskopf LA, Sokolow LZ, Broder KR, et al, Centers for Disease Control and Prevention (CDC) Prevention and Control of Seasonal Influenza with Vaccines: Recommendations of the Advisory Committee on Immunization Practices - United States, 2017-18 Influenza Season. *MMWR Recomm Rep.* 2017 Aug 25;66(2):1-20 full-text.

以上のように、同じ臨床支援ツールでも、トピックの立て方、レビューの書き方などに違いがあります。臨床支援ツールを使う時のポイントは、最初からレビュー全文を読むのではなく、Summary や Overview などを確認し必要な箇所から読むことです。また、頻繁に更新されるため、常に最新の情報をチェックする必要があります。更新タイミングや参照情報源の違い、レビュー一見解の相違などが考えられるため、一つの情報源をうのみにしないことも大切です。日々忙しい医療従事者にとって、効率的に情報を得られる臨床支援ツールはとても便利なツールです。UpToDate と DynaMed Plus の両方を使える機関はなかなか珍しいので、この機会に使い方をマスターしてぜひご活用ください。

臨床支援ツールへのアクセス

図書館ホーム▷オンラインリソース▷EBM実践支援ツール▷UpToDate / DynaMed Plus

登録すると学外からもご利用いただけます。(学報61号p7「図書館だより：リモートアクセス」参照)



第2期中期目標・中期計画の達成に向けて

平成30年度は、本学の業務運営の根幹である中期計画の最終年度になります。

平成28年度の年度計画の評価では、繰越欠損金の解消に向けた取組が課題とされた『法人運営』に関しては、「詳細な経営分析を行い、設立団体である奈良県とも協議し、持続的な運

営について検討を深められたい」との意見を付されたが、全体としては、「順調に進んでいる」と評価を受けました。

平成30年度は、第2期中期計画の最終年度です。28年度の評価を踏まえ、法人の教職員全員が一丸となり、計画の達成に向けた取組を着実に進めていきましょう。

第3期中期計画の策定について

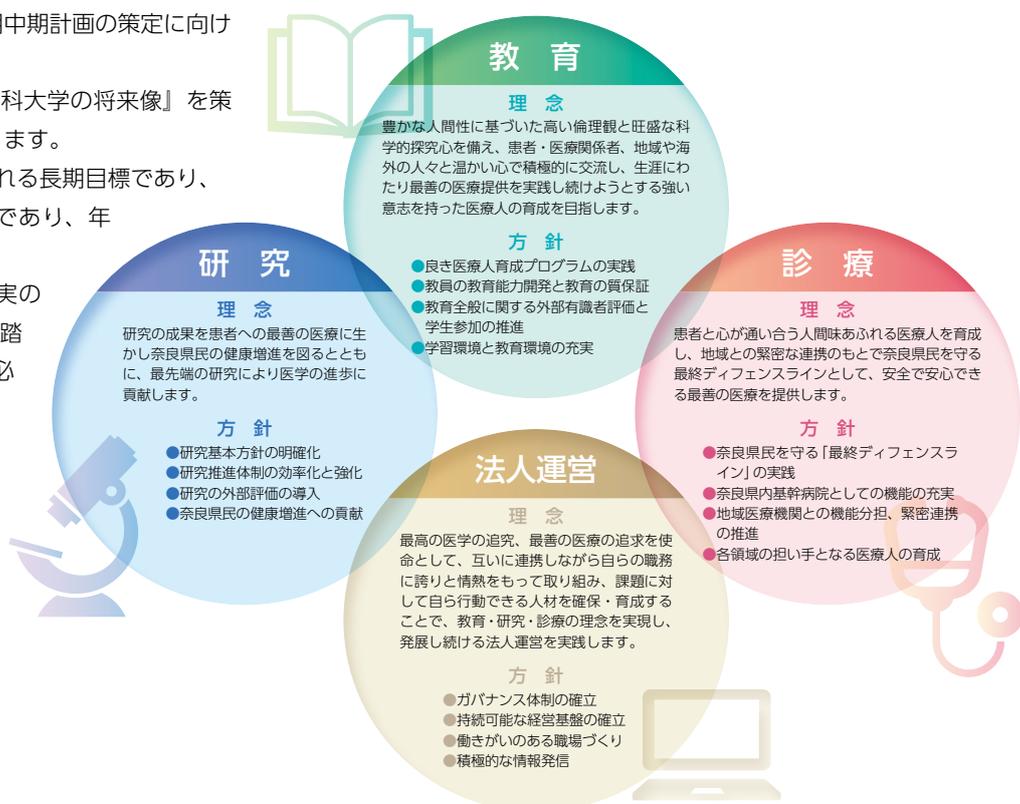
平成30年度から本格的に第3期中期計画の策定に向けた議論を開始します。

第3期中期計画は、『奈良県立医科大学の将来像』を策定してから初めての中期計画となります。

将来像は、理念と方針から構成される長期目標であり、それらを具現化するのが中期計画であり、年度計画です。

したがって、本学が将来像を現実の姿とするためには、理念や方針を踏まえた中期計画を策定することが必要となります。

そして、そのような中期計画を策定していくためには、各役員の下で関係教職員を広く巻き込んで、必要な議論を主体的に行い、将来像の達成に向け教職員が一丸となって取り組める内容にすることが重要です。



専門看護領域の研修を行っています

看護実践・キャリア支援センターでは、地域貢献事業として、専門看護領域の研修開催を行っており、奈良県内の病院や訪問看護ステーションへも参加を募っています。昨年度は、『認知症予防および認知症を持つ患者への対応力向上研修』、『がん化学療法看護研修』、『がん看護コミュニケーション研修』、『明日から使える褥瘡予防・治療の知識と技術研修』、『摂食嚥下障害看護研修』を開催しました。今年度は、『がん放射線療法看護研修』や、新たに『急変時対応研修(在宅編)』として、在宅での急変時対応について、スキルスラボを使った少人数のシミュレーション形式の研修を企画しています。附属病院の専門看護師・

認定看護師を講師として協力頂いています。ぜひ、関心のある研修へご参加ください。



摂食嚥下障害看護研修の様子



がん化学療法看護研修の様子

1.18

いのち輝く未来社会のデザインシンポジウムにMBTの研究成果を展示しました

大阪国際会議場（グランキューブ大阪）において、「いのち輝く未来社会のデザインシンポジウム in おおさか」が開催され、展示ブースでは、MBT の成果である健康見守りを行うウェアラブル機器を展示しました。

シンポジウムでは、細井理事長・学長が、2025 年開催をめざす大阪万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に向けた展望についてパネリストとして参加しました。



自ら説明する細井理事長・学長

1.31

丹波市議会が MBT 事業の視察のために来学されました

医学の正しい知識を産業創生、さらには、その成果をまちづくりまで発展させる MBT 事業の視察のため、丹波市議会議長をはじめとする丹波市議会議員 9 名が来学されました。

MBT 研究所長でもある細井理事長・学長が、MBT 事業の研究成果を説明するなど、MBT を広める良い機会になるとともに、MBT 構想の全国的な広がりを肌で感じる事ができました。



MBT を説明する細井理事長・学長

2.4

くすりの町漢方マルシェに出展しました

高取町リベルテホールにおいて、くすりの町漢方マルシェが開催され、MBT 研究所は、健康チェックコーナーを設けました。ブース内では、笑顔、メタボ、ロコモ度、ストレスなどの測定を行い、参加された方の健康について考えるきっかけの場となりました。

MBT 研究所では、今後も、健康について考える場の提供として「健康」をテーマにイベントを開催する予定です。



まちあるきストレス測定の様子



スマイル測定の様子

2.4

大和漢方医学薬学セミナーを開催しました



講義中の三谷特任教授

大和漢方医学薬学センターの三谷和男特任教授より「これだけは知っておきたい漢方処方」と題し、風邪をはじめとする急性期・慢性期の諸症状などの漢方薬にスポットをあて実技スタイルでのセミナーを行いました。

当日は、解説の他、脈診の実技取り方やお困りの症例を事前に募集したこともあり、受講の先生からの症例報告や質疑もあり、診療法や漢方処方など熱心な質疑応答が交わされました。



セミナーの様子

2.8

奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました

聖路加国際病院 リウマチ膠原病センターの津田篤太郎先生を講師にお招きした4回シリーズの最終回「漢方の使い方②～漢方薬が効かなかった時の次の一手を知る～」を開催しました。

今回は、多くの症例をもとに漢方の処方方を講義され、講義終了後は多くの質疑応答があり盛況のうちにセミナーが終了しました。

平成30年度は、知多厚生病院 副院長兼内分泌代謝科部長 丹村敏則先生の4回シリーズが始まります。

7月26日(木) 18:30～20:00 厳櫃会館 大ホール
「知らなきゃ損！～糖尿病専門医が語る漢方活用術～」

4回シリーズで漢方の仕組みをご理解いただく内容となっており、興味のある先生方のご参加をお待ちしております。



セミナーの様子



講演中の津田先生

2.21
2.22

研究倫理教育研修会を開催しました

研究倫理教育研修会を開催しました。車谷教育・研究担当理事を講師に、研究倫理に関して、研究不正はなぜ起こるのか、また、どのように防止すればよいのかなどについてお話いただきました。

なお、この研修会は、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文科科学大臣決定）」及び「公立大学法人奈良県立医科大学における研究活動上の不正行為の防止等に関する規程」に基づき、毎年開催しています。



車谷教育・研究担当理事

2.21
～23

メディカルジャパン2018 関西医療機器 開発製造展に出展しました

インテックス大阪において、本学の卒業生であるKTX株式会社の野田太一代表取締役社長のご協力により、MBT研究所のブースを開設しました。

ブースの場所も良く大勢の方が来場され、本学教員によるプレゼンテーションの実施等、MBTの研究成果を大いに発信する機会となりました。



KTX（株）野田社長と細井理事長・学長



プレゼンテーションの様子

2.27
～3.7

チェンマイ大学との 交流を図っています

本学とタイのチェンマイ大学との間で平成8年に締結された学術交流協定に基づき、19回目となる交換留学を実施しました。

平成30年2月27日から3月7日まで、チェンマイ大学医学部4年生の学生2名が来学し、循環器内科学、第二内科学、第三内科学、消化器・総合外科学、整形外科科学、小児科学、放射線医学、総合医療学、救急医学の9教室で研修を行いました。関係教室の先生や職員の方々には、ご協力深く感謝します。

また、本学からは3月17日～3月25日の日程で、医学科4年生4名がチェンマイ大学を訪れ、現地の医療・医学事情等について研修を行いました。



Campus News

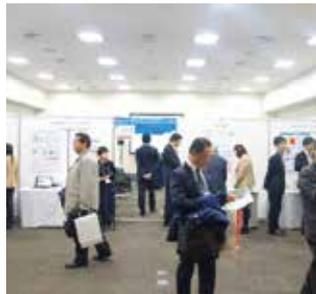
3.1 〈ナント〉元気企業マッチングフェア 2018に出展しました

グランフロント大阪において開催された「〈ナント〉元気企業マッチングフェア 2018」に MBT 研究所と MBT コンソーシアムが共同で研究成果を発表しました。

当日、展示会場では、新産業創生・地域創生シンポジウムを開催しました。細井理事長・学長が基調講演を行われ、MBT 活動の成果を報告する貴重な場となり盛況のうちに終了しました。



講演中の細井理事長・学長



ブース展示の様子

3.6 海外から最新医療システムの視察に来られました

当院では、呼吸モニターシステムとナースコール PHS と連動した呼吸安全管理システム Safety・Net™NMU をマシモジャパンとケアコムとの協力のもと世界に先駆けて開発し、昨年 B 棟 E 棟に導入しました。3 月 6 日に香港ならびに上海マシモ社からこの Safety・Net™NMU の視察に来られました。視察を通じて呼吸モニタリングの重要性を再確認されるとともに、同システムの中国での導入を検討されるとのことでした。7 月頃には香港の医療スタッフが視察予定です。なお本システムは皆様のご協力のもと更に進化したシステムを現在開発中です。



3.10 看護研究発表会を開催しました

平成 29 年度看護部院内研究発表会を平成 30 年 3 月 10 日 9:00～16:30 第 1 臨床講義室で開催しました。それぞれの所属が日常の実践の中から看護上の課題を明らかにし、課題解決のための取り組みを発表しました。26 演題の発表に対し、質疑応答が活発に行われ会場は熱気に包まれていました。参加者は 190 名で、発表会後のアンケートでは、「発表を聞いて刺激を受けた」「活動は大変だったけど学びは大きかった」といった意見が出ていました。今後も各所属の取り組みの成果を発表する場として、研究者も参加者も相互に学ぶ場として、この発表会を続けていきたいと考えています。



4.1 高井病院に陽子線がん治療研究センターを開設しました

冒頭の理事長からのメッセージでも述べさせていただきましたが、3 月 4 日に細井理事長・学長、荒井奈良県知事出席のもと、高井病院で県内初となる陽子線治療センターの竣工式・施設見学会が行われました。

高井病院には、本年 4 月 1 日に本学の研究施設である「陽子線がん治療研究センター」を開設し、陽子線がん治療の効果向上と患者負担軽減につながる研究を実施します。同時に、連携大学院も設置しています。



左から細井理事長・学長、荒井知事、放射線腫瘍医学 長谷川教授

Winner Report

5.11

第90回日本産業衛生学会で 奨励賞を受賞しました

県民健康増進支援センター 特任准教授 富岡 公子

平成29年5月11日に東京で開催された第90回日本産業衛生学会において、『有害作業に起因する健康障害への疫学的アプローチ』という演題で、奨励賞をいただきました。これまで、対人サービス業従事者の健康障害に関する研究と、化学物質取扱い労働者の発癌リスクに関する産業疫学的研究を行ってまいりました。今回の受賞は、ご指導頂いた車谷典男先生、共同研究者の先生方、研究にご協力頂いた皆様のお陰です。この場をお借りして厚くお礼申し上げますとともに、これを励みに、今後も研究に精進して参ります。



11.2

第63回日本病理学会秋期特別総会で 日本病理学会学術研究賞を受賞しました

分子病理学 講師 笹平 智則

平成29年11月2日に第63回日本病理学会秋期特別総会においてA演説を行い、日本病理学会学術研究賞を受賞いたしました。演題は「口腔癌における腫瘍促進因子としてのMIA gene familyの役割」です。本来であれば前号で報告すべきでしたが、諸般の事情により遅くなってしまいました。所属においては、恵まれているとは必ずしも言えない環境ですが、今まで取り組んできたことに対してある程度の評価をいただけたことを光栄に感じております。最後になりましたが、所属が異なるにも関わらず、親身になって日々ご指導いただいております桐田忠昭教授に心より感謝申し上げます。

12.8
~10

第21回日本心血管内分泌代謝学会 学術集会で高峰譲吉賞を受賞しました

循環器内科学 教授 斎藤 能彦

平成29年12月8日~10日に開催された第21回日本心血管内分泌代謝学会学術集会におきまして、本学会でもっとも権威のある高峰譲吉賞を受賞する栄誉に浴しました。心血管内分泌代謝学会は、ナトリウム利尿ペプチド、アンジオテンシンやエンドセリンに代表される心血管系ホルモンとそれらの病態生理的意義に焦点を当てた学会です。この研究分野はアドレナリンを発見された高峰譲吉博士にその源流を求めることができることより、同学会は、同分野での活動が顕著であった研究者を高峰譲吉博士のお名前を冠した賞を毎年一人授賞しております。

私は、ナトリウム利尿ペプチド系の心不全での意義や、最近では、動脈硬化や炎症惹起作用を有するPLGFとその内因性拮抗物質であるsFltのバランスの破綻が心腎連関の形成に一部関与していることを解明してまいりましたが、これらの業績が受賞理由となりました。



12.10

第34回国際心臓研究学会日本部会で Young Investigator Awardを受賞しました

循環器内科学 助教 熊澤 拓也

この度、第34回国際心臓研究学会日本部会においてYoung Investigator Awardを受賞いたしました。このような歴史ある学会で素晴らしい賞を頂くことが出来て非常に光栄に思っております。発表は心腎連関といわれる心疾患と腎疾患のつながりに関する新たな知見です。腎不全患者は心血管病発症リスクが高いことは以前から知られていましたが、その機序については謎のままでした。今回明らかにした研究結果を、医療に還元できるようにさらに精進してまいりたいと思います。



12.22

2017医学誌「Blood」TOP 10に藤村吉博
名誉教授らが参加した論文が選ばれました

名誉教授 藤村 吉博

(現、日本赤十字社近畿ブロック血液センター所長)

「Blood」は impact factor (2016) が 13.164 という高い学術評価を受けている血液学専門誌です。一年間に 1,000 編を超える論文が掲載されていますが、この中で、「ADAMTS13 活性が著減する先天性血小板減少性紫斑病 (TTP) 患者に対する遺伝子組み換え ADAMTS13 療法の Phase 1 国際共同治験 (邦訳)」が「2017年に最も影響を与えた Blood 論文 TOP 10」に選ばれました。本論文は製薬会社 Shire のサポートのもと、英国、ドイツ、スイス、オーストリア、米国、日本の 6 カ国の 14 名の研究者が加わり、その筆頭者はデータの取りまとめをしたロンドン大学血液内科の Marie A. Scully 教授です。対象患者数は 15 名で、うち日本人は 2 名です。本邦からは患者の発見、診断を行った本学の藤村吉博名誉教授と、治験施設の東京医科歯科大学病院の梶原道子准教授が共著者となっています。また引用文献 47 編中、5 編は本学から発せられたものです。



先天性 TTP は別名 Upshaw-Schulman 症候群と呼ばれる極めて稀な疾患で、患者数は全世界で 200 名足らずです。うち奈良医大輸血部 (現、松本雅則教授) では、1998 年以降、本邦 60 余名の患者の診断登録をしております。今回の発表は本学が本邦のみならず、国際的にも高い評価を得ている TTP 研究施設であることを示すものです。

1.6
~8第 1 回日本循環器学会基礎研究
フォーラムで受賞しました

循環器内科学 助教 熊澤 拓也

この度、第 1 回日本循環器学会基礎研究フォーラムにおいて Young Investigator Award を受賞いたしました。この学会は今後の日本循環器基礎研究の中心を担っていく学会です。記念すべき第 1 回目の学会で名誉ある賞を頂くことが出来て大変光栄に思っております。研究内容は心不全の発症・増悪を抑制する新規の Long Noncoding RNA (LncRNA) の発見と機能解析に関するものです。この LncRNA の補充療法が心不全を抑えることは動物モデルより明らかになっており、今回の発見は次世代の創薬に繋がるものと期待しております。

循環器内科学 医員 中田 康紀

品川インターシティホールで開催されました「第 1 回日本循環器学会基礎研究フォーラム」において、優秀ポスター賞を受賞いたしました。受賞演題名は「Oral Carbon Absorbent Protects the Progression of Atherosclerosis via Preserving sFlt-1 Expression」です。慢性腎臓病患者において尿毒素物質を除去することが知られている球形吸着炭を腎不全モデルマウスに投与することで、可溶性 fms 様チロシンキナーゼ 1 (soluble fms-like tyrosine kinase-1 ; sFlt-1) の発現低下を防ぎ、動脈硬化進展抑制につながる可能性を示した研究です。受賞に際しまして、斎藤能彦教授をはじめ、御指導いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

2.2
2.3

第28回日本疫学会総会で 奨励賞を受賞しました

疫学・予防医学講座 准教授 大林 賢史

【受賞対象研究題目】

「光曝露と生体リズム現象に関する前向きコホート研究」

本学疫学・予防医学講座の 大林賢史 准教授 が、平成 30 年 2 月 2 日～3 日に福島県福島市で開催された第 28 回日本疫学会総会で奨励賞を受賞しました。日本疫学会はアジアにおける疫学の主要学会で、世界をリードする研究者が多く所属する学会です。本奨励賞は疫学領域で顕著な業績をあげ、今後の活躍が期待される研究者を表彰するもので、本受賞対象研究では「光」という普遍的かつ修正可能な環境因子が生体リズム現象や疾患発症に関連することを示唆したことの新規性や重要性が高く評価され、受賞に至りました。今後も継続的にコホートを追跡し、さらに精度の高い研究結果を公表していくとともに、疾病予防につながる介入研究を行っていきたいと考えています。



2.15

遠山椿吉記念第5回健康予防医療賞 授賞式で山田和江賞を受賞しました

県民健康増進支援センター 特任准教授 富岡 公子

平成 30 年 2 月 15 日に東京のホテルメトロポリタンエドモントで開催された遠山椿吉記念 第 5 回健康予防医療賞授賞式において、『地域在住高齢者の健康長寿を規定する要因を疫学研究によって明らかにする』という演題で、山田和江賞をいただきました。これまで行った研究によって、国民の健康長寿を達成するためには、自覚的難聴の改善、趣味・生きがい作り、社会参加の推進が有効であることを明らかにしました。今回の受賞は、ご指導頂いた細井裕司先生、車谷典男先生、共同研究者の先生方、研究にご協力頂いた皆様のお陰です。この場をお借りして厚くお礼申し上げますとともに、これを励みに、今後も研究に精進して参ります



2.19

高度医療技術修得者養成について



本院では、平成 22 年 6 月から医療技術の進歩による医療機器の多様化・高度化に対応できる、より専門性の高い臨床工学技士「高度医療技術修得者」を全国に先駆け、当院独自で養成しています。「高度医療技術修得者」は周術期のチーム医療に麻酔アシスタントとしての配置を目的とし、日本麻酔科学会編「周術期チームテキスト」を基準とした「麻酔アシスタント業務に関する臨床工学技士の高度医療技術修得のための研修プログラム」により、500 例以上の実習を中心とした研修を、麻酔科医の指導の下で 1 年間受講します。

今回、医療技術センターの臨床工学技士 2 名（衣笠佑基技師、曾碩真弘技師）が、この研修プログラムを修了し、高度医療技術修得者養成認定審査委員会の認定審査を経て、2 月 19 日に古家病院長から両名に認定証が交付されました。

【高度医療技術修得者】

平成 23 年度	杉本 浩士 川西 秀明
平成 24 年度	塩田 隆 杉田 匠
平成 25 年度	藤田 剛史 山中浩太郎
平成 26 年度	小野寺広希
平成 28 年度	衣笠 佑基
平成 29 年度	曾碩 真弘

これにより総勢 9 名の臨床工学技士が高度医療技術修得者として、麻酔科医と共に周術期領域で活躍しています。

2.26

平成 29 年度コニカミノルタ 画像科学奨励賞を受賞しました

未来基礎医学教室 特任講師 森 英一朗

この度、「ヒト脳オーガノイドを用いた光転写制御による細胞死の理解」を研究テーマとして、コニカミノルタ科学技術振興財団・平成 29 年度コニカミノルタ画像科学奨励賞（50 万円）を受賞しました。本研究では、ヒト脳オーガノイド（試験管内で作製した脳組織）を、光刺激によって遺伝子発現を時空間的に操作し、組織内での細胞の挙動を詳細に解析することを目指しております。本受賞を励みに、今後益々、研究に精進したいと思います。



Winner Report

3.3

第219回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞(優秀演題賞)を受賞しました

神経内科学講座 後期研修医 尾崎 麻希

平成30年3月3日に大阪市で開催された第219回日本内科学会近畿地方会における若手奨励賞セッション(口演発表)で、本学神経内科学講座の尾崎麻希後期研修医が50題以上の中から選ばれ、優秀演題賞を受賞しました。演題「眼窩内腫瘍による外眼筋麻痺と三叉神経障害を呈した1例」は、当科と本学病理診断学、形成外科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学との共同研究による成果であり、外眼筋麻痺の病因と病変部位、発症機序を考える上で貴重な症例検討でした。本学会の若手奨励賞は、審査委員19人の厳正な選考により授与されたものです。若手医師にとっては今後の内科学診療および研究の大きな励みとなり、今後さらに研究の発展に貢献してくれるものと考えます。



3.7

平成29年度TBL Best Teacher表彰式を行いました

本学では、双方向性授業の導入のための教育手法として以前よりTBL(Team Based Learning)を導入してきました。昨年度行われた基礎医学I(医学科2年生)、基礎医学II(医学科3年生)、臨床医学(医学科5年生)におけるTBL(Team Based Learning)で、学生アンケートにて「一番興味を持ったTBL」に選ばれた担当教員がBest Teacherとして細井学長より表彰されました。

基礎医学I TBL Best Teacher 生化学 講師 廣中 安佐子

基礎医学II TBL Best Teacher 免疫学 助教 北畠 正大

臨床医学 TBL Best Teacher 放射線医学 講師 伊藤 高広

胸部・心臓血管外科学 助教 山下 慶悟



3.7

平成29年度FD活動表彰式を行いました

平成29年度は全11回のFDが開催されました。平成29年度FD活動の表彰については、医学教育フォーラム(テーマ:地域基盤型医療教育)において提出されたレポートにより、本学にとって有意義であり、非常に充実した意見を発表いただいた方を対象といたしました。結果、神経内科学 杉江和馬教授が細井学長より表彰されました。

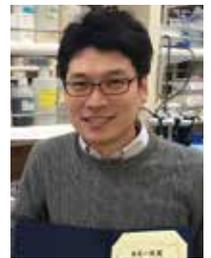


3.9

上原記念生命科学財団・平成29年度研究奨励金を受賞しました

未来基礎医学教室 特任講師 森 英一朗

この度、「ヒト脳オーガノイドを用いたC9orf72関連ALS/FTDの研究」を研究テーマとして、上原記念生命科学財団・平成29年度研究奨励金(200万円)を受賞しました。本研究では、ヒト脳オーガノイド(試験管内で作製した脳組織)を用いた、C9orf72関連ALS(筋萎縮性側索硬化症)・FTD(前頭側頭型認知症)の病態解明を目指しております。本受賞を励みに、今後益々、研究に精進したいと思います。



3.14

中富健康科学振興財団・平成29年度(第30回)研究助成金を受賞しました

未来基礎医学教室 特任講師 森 英一朗

この度、「骨格筋の機能異常をきたすDesmin変異の解析」を研究テーマとして、中富健康科学振興財団・平成29年度(第30回)研究助成金(150万円)を受賞しました。本研究では、骨格筋の機能において重要であるDesminの変異の機能解析を通じて、筋変性疾患の病態解明を目指しております。本受賞を励みに、今後益々、研究に精進したいと思います。



3.17
~22

**第43回 Society of Interventional Radiology
で2017 JVIR Top Outstanding Laboratory
Investigation Awardを受賞しました**

放射線科・IVRセンター 講師 西尾福 英之

平成30年3月17~22日に米国ロサンゼルスで開催された第43回 Society of Interventional Radiologyにおいて、Top Outstanding Laboratory Investigation Awardを受賞しました。この賞は2017年度に Journal of Vascular and Interventional Radiology に掲載された全論文を対象として選出される栄誉ある賞で、論文タイトルは“*Intraarterial Therapy Using Micellar Nanoparticles Incorporating SN-38 in a Rabbit Liver Tumor Model*”である。この研究は、悪性肝腫瘍に対してIVRとナノ技術を融合させた新規治療法の開発に関する基礎研究である。日本の地方大学からIVRの可能性を世界に発信できたことは大変光栄であると同時に、本研究に対してご指導をいただきました吉川公彦教授、田中利洋准教授に厚く御礼申し上げます。また、本研究実施に対しご協力いただきました多くの関係者の皆様に深く感謝致します。



3.23

**本学医学科3年生の坂口さん・林さんの共著論文
がNeuroscience Lettersに掲載されました**

医学部医学科3年（未来基礎医学教室） 坂口 義彦
林 瑠星

本学医学部医学科3年の坂口義彦さんと林瑠星さん（本学・未来基礎医学教室）が共著者の論文が、神経科学分野の国際専門誌である「Neuroscience Letters」に掲載されました。本論文は、筆頭著者の松井健先生（未来基礎医学教室・博士研究員）が中心となって行った研究で、米国テキサス大学 Southwestern Medical Center との共同研究による成果になります。ヒト多能性幹細胞を試験管内で3次的に、長期間培養することで、大脳皮質様の成熟した組織を作製することに成功しました。本成果は、ヒトの脳神経系疾患の病態解明や創薬につながるものと期待されます。坂口さんと林さんは、本学・未来基礎医学教室の研究生として日々研究室に通い勉強を重ね、本論文の完成に貢献しました。今後も、研究活動を発展させて、活躍してくれることを期待します。



【掲載論文】

Matsui TK, Matsubayashi M, Sakaguchi YM, Hayashi RK, Zheng C, Sugie K, Hasegawa M, Nakagawa T, Mori E. Six-month cultured cerebral organoids from human ES cells contain matured neural cells. *Neurosci Lett* 2018; 670: 75-82.

平成29年度（第3回）若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

平成29年度（第3回）若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の4名の方々に決定しました。この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。年3回各所属に募集案内をしますので、積極的なご応募をお待ちしています。

所属	職名	氏名
県立医大医師派遣センター	特任助教	江川 琢也
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	阪上 雅治
放射線医学	医員	南口貴世介
消化器・総合外科学	医員	中村 広太

平成29年度 学位授与の状況

次の32名に博士（医学）の学位が授与されました。（甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。）

本審査日 平成29年6月13日（火）10名

- (甲) 森 英一郎 総合病態放射線腫瘍学
- 久留野 紀子 感染症制御医学
- 笹川 誉世 分子生体構造科学
- 田中 寿典 運動器再建医学
- 西村 友紀 皮膚病態医学
- (乙) 杉村 岳俊 生理学第一
- 伊藤 眞廣 消化器・総合外科学
- 上條 哲 整形外科
- 井川 大輔 精神医学
- 堀 沙恵香 放射線医学

本審査日 平成29年9月12日（火）2名

- (乙) 大倉 康志 内科学第三
- 中西 葉子 精神医学

本審査日 平成29年11月14日（火）8名

- (甲) 中田 康紀 循環器・腎臓病態制御医学
- 吉井 由美 血液・血流機能再建医学
- 後藤 大輔 泌尿器機能制御医学
- (乙) 松村 羊子 免疫学
- 田川 美穂 内科学第一
- 鍛冶 大祐 整形外科
- 谷掛 洋平 整形外科
- 石西 綾美 輸血部

本審査日 平成30年3月6日（火）12名

- (甲) 伊藤 雪絵 公衆衛生学
- 川西 秀明 侵襲制御・生体管理医学
- 内藤 祐介 侵襲制御・生体管理医学
- 貴志 洋平 女性生殖器病態制御医学

- 三上 慎司 耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
- 速水 直生 運動器再建医学
- (乙) 竹田 幸祐 内科学第三
- 藤本 憲太 脳神経外科学
- 棚瀬 康仁 産婦人科学
- 長谷川 泰司 眼科学
- 浅井 英樹 救急医学
- 高谷 恒範 教育開発センター

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、平成30年3月までに累計1,802件のご寄附をいただいております。
なお、今号では、平成29年12月～平成30年3月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

平成29年11月以前にご寄附いただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍基金」HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>)に掲載しております。

【個人】

◆100万円以上1,000万円未満

秋田 雅弘 様 大鶴 昇 様 大西 英之 様
國分 清和 様

掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆30万円以上100万円未満

植田 勝廣 様 岡田 正広 様 小川 淳司 様
北村惣一郎 様 北村 弥 様 國松 幹和 様
國分麻依子 様 國分 律子 様 嶋 緑倫 様
下川 充 様 新名 直樹 様 杉江 和馬 様
田中 利洋 様 南淵 明宏 様 南淵 芳 様
西尾 健治 様 西村 明子 様 西村 義明 様
長谷川正俊 様 畠山 雅行 様 星田 徹 様
松井 一哲 様 全田 繁広 様 宮城 敏夫 様
森岡 敏一 様 山下 裕嗣 様 吉川 雅則 様
米田 龍生 様 和田 誠 様

掲載を希望されないご寄附者様 7名

◆10万円以上30万円未満

浅川 勇雄 様 市橋 成夫 様 稲垣 有佐 様
岩田栄一郎 様 上村 裕和 様 小川 宗宏 様
川崎佐智子 様 川手 健次 様 北田 力 様
下村 隆英 様 杉江 美穂 様 玉井 涉 様
中村 宇一 様 橋本 多加 様 藤田 正之 様
松井 逸子 様 松井 稔 様 丸山 直樹 様
山内 基雄 様 若月 幸平 様

掲載を希望されないご寄附者様 17名

◆10万円未満

伊藤 妙子 様 加治 慎一 様 河野 悌司 様
米田 誠克 様 榊 徳子 様 杉山 信子 様
千 泰規 様 濱田 薫 様 廣瀬 友亮 様
福住 房子 様 森本 安彦 様 矢島 弘嗣 様

掲載を希望されないご寄附者様 25名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

石村 直子 様 太田 一郎 様 岡崎 愛子 様
桶田 正成 様 北奥 恵之 様 北口 順子 様
阪井 利幸 様 芝野 匡志 様 白江 伸宏 様
藤間 保晶 様 友田 恒一 様 永野 龍生 様
畠中 利英 様 幅田 孝 様 福居 顕宏 様
藤本 隆 様 本田麻衣子 様 三浦 幸子 様
森本 剛史 様 保田健太郎 様 遊佐 敏彦 様

【法人・企業】

◆50万円以上100万円未満

医療法人いずみ会 様

◆10万円以上50万円未満

医療法人 新生会 総合病院 高の原中央病院 様
(五十音順)

学報編集委員会 からのお知らせ

寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関する出来事、お知らせ等を掲載いたしておりますが、これらに関連する記事を皆様からも広く募集いたします。

ご興味のある方は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



公開講座情報

第1回わい和いNARA 在宅サポート研究会研究発表会

開催日：平成30年5月19日(土) 10:00～15:30
場所：奈良県立医科大学 大講堂
概要：テーマ「みんなで創ろうNARAの和！
 一つなげる、つながる^{じよ}のこころ」
 講演、シンポジウム、在宅サポートに関する研究発表及び事例検討

対象：県民
定員：600名
備考：事前申し込み必要(5月11日メ切) 参加無料
問合せ先：奈良県立医科大学 在宅看護学
 0744-22-3051(内：2776)

新しい寄附講座・共同研究講座を開設しました

寄附講座

血友病教育講座

開設期間：平成30年4月1日～平成33年3月31日(3ヶ年)
専任：助教(寄附講座) 矢田 弘史

血栓止血分子病態学講座

開設期間：平成30年4月1日～平成33年3月31日(3ヶ年)
専任：助教(寄附講座) 古川 晶子

共同研究講座

血栓止血医薬生物学共同研究講座

開設期間：平成30年4月1日～
 平成36年3月31日(6ヶ年)
専任：助教(共同研究講座)
 坂田 飛鳥



平成30年度入試結果

		募集人員	志願者数 (A)	受験者数	合格者数 (B)	追加合格者数 (Bの内数)	入学者数	志願倍率 (A/B)	前年度倍率
医学科	推薦(緊急医師確保)	13	111	102	13	0	13	8.5	10.9
	推薦(地域枠)	25	178	173	25	0	25	7.1	6.9
	前期	22	201	167	22	0	22	9.1	14.7
	後期	53	929	336	59	6	53	15.7	23.2
	編入学(研究医枠)	2	4	4	1	0	1	4.0	2.0
	編入学	1	26	22	2	1	2	13.0	21.0
	小計	116	1,449	804	122	7	116	11.9	16.9
看護学科	推薦(地域枠)	35	77	77	35	0	35	2.2	2.3
	社会人	5	6	6	3	0	2	2.0	8.0
	前期(一般枠)	35	107	101	36	1	35	3.0	1.5
	前期(地域枠)	10	33	33	13	0	13	2.5	2.5
	小計	85	223	217	87	1	85	2.6	2.1
医学部	合計	201	1,672	1,021	209	8	201	8.0	10.7

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要	
2018年	1月15日	CBC ラジオ「多田しげおの気分爽快!!朝からP・O・N」 疫学・予防医学 教授 佐伯 圭吾	室温と血小板数の関連について	
	1月29日	日本経済新聞 —	MBT について	
	2月23日	奈良日日新聞 病院長 古家 仁	ヘリポートについて	
	3月1日	県民だより3月号 救急医学 准教授 福島 英賢	ドクターヘリについて	
	3月1日	日経産業新聞 化学 教授 酒井 宏水	人工赤血球の開発について	
	3月7日	米国 TIME 誌 (WEB) 疫学・予防医学 准教授 大林 賢史	寝室の明るさとうつ症状に関する研究内容について	
	3月9日	朝日放送「キャスト」 脳神経外科学 准教授 朴 永銖	SBS と虐待に関する見解が紹介された	
	3月10日	奈良テレビ 「県民だより奈良 ならいいね!」 産婦人科学 教授 小林 浩	救急医学 准教授 福島 英賢	周産期医療の体制整備についてインタビュー
			病院長 古家 仁	ドクターヘリについてインタビュー
3月23日	奈良日日新聞	病院長 古家 仁	医療人育成についてコメント	

編集後記

皆様からのご協力をいただき第64号学報を発行する事ができました。ご協力・ご支援頂いた皆様に深く感謝いたします。

新年度に入り、皆様いかがお過ごしでしょうか。新人の方、異動された方も、新しい職場にだいぶ慣れたころでしょうか。季節の移り変わりの時期は体調を崩しやすいので、皆さま体調管理には十分にお気を付け下さい。

さて、2月に病院屋上にヘリポートが完成しました。今後ますますの地域医療への貢献に努めて参りたいと思います。

